

『仕える方に目を向ける』 マルコ10:35-45

10:35 さて、ゼバダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。

10:36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。

10:37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。

10:38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。

10:39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう」。

10:40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。

10:41 十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。

10:42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

10:43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

10:44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。

10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人があがないとして、自分の命を与えるためである」。

●序論

中央聖書神学校理事長仁井田義政先生の著書「若き献身者達へのエール」。

そこにはこうありました。「伝道者、牧師になる人たちは、自分にその能力があるかどうか、…ではなく、『こんな者でもイエスさまに愛されている』ということ、何にもまさる宝として、人生の土台にしているかどうかである」と。

実は、これはクリスチャンの皆さんとも共有できる言葉です。「わたしは神さまに愛されている」と心に受け取り続ける事の大切さです。

マルコ10:15-16

よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。

今日の記事は、幼な子のような素直さではなく、大人のいやらしさを思わずにはいられませんが、それでもなお、イエスさまはこの弟子たちを誠実に愛し、包み、導かれ、その歩みを示されている、そのことに注目できれば感謝です。

●本論

I. 耳を傾けてくださる

先週を振り返ります。エルサレムへ向かう中、先頭に立って進まれるイエスさまのお姿とその言葉を見ました。その直後にヤコブとヨハネがイエスさまのもとに来て、語った言葉が今日お読みしたところです。

10:35 さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。

10:36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。

10:37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。

「今それを口にするか？」というような非常識で利己的なお願いに聞こえます。

ヤコブやヨハネ、そしてその後に出てくる弟子たちの心に、まだイエスさまの言葉は届いていなかったのでしょうか。

マルコの福音書は、それでも、イエスさまがその言葉を退けたり適当にあしらったりされなかったことを記録しています。

ここで分かるのは、イエス様は、こんなタイミングでこんな願いにも“十字架上から注がれる同じ愛”でもって耳を傾けてくださっている…ということです。

わたしたちが祈れるのは、わたしたちがどれだけ利口でいて、よく神さまの御心を理解し、わかっているから…ということが前提ではありません。

わたしたちが祈れるのは、自分の足りなさや不理解、愚かさがあっても「それでも、わたしは神に愛されている」と言えるからです。

その証がああキリストが、わたしたちのために負われた十字架です。

のちの使徒パウロもまたそういう経験から手紙を通して私たちに勧めます。

ピリピ4:6-7 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と意思とを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

II. 神の主権を示される

10:38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっているか。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。

10:39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。

10:40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。

あのヤコブとヨハネたちが期待していたのは、来るべき神の国における栄冠でした。

イエス様は、そこに行き着くまでに、まずそれぞれが自分の困難を通り、十字架を負わなければならないことを誠実に教えられました。

一方でここにはイエス様の彼らに対する信頼も示されています。

イエス様は、ヤコブとヨハネが忠実であることを決して疑いませんでした。

のちにキリストの十字架後、逃げ去った弟子たちは自分自身を嫌悪し、引きこもり、劣等感と、惨めさと失望の中で過ごしたことがあります。

しかし、イエスさまはすでに彼らを愛し、将来の回復を願い、信頼されていました。

だからこそ、復活した後、再び、その彼らに現れてくださいました。

私たちの将来と希望は、このイエスさまの信頼と恵みにかかっています。

わたしたちは、一生ずっとクリスチャンとしてやっていけるかどうか心配が起こってきますが、あなたのその不安を大切にしてください。

もし自分の意志や能力でやって行けるといふ、自信や見通しがあるなら信仰は不要になるからです。

あなたのその不安を神にゆだねることが大切です。

自信がないからこそ、キリストの約束の言葉を頼りにして、キリストの救いに期待するわけで、それが信仰生活なのです。

イエス様は、人間的な能力の「できる」「できない」によって、神さまの栄光にあずかることはない…そのことを示されました。それは「神さまの主権・ご計画」と「許し」の中にあることを示されたのです。

わたしたちキリスト者の人生は自分の能力の有無によって成り立つのではありません。神さまの恵みと主権とご計画によって導かれるのです。

1コリント1:27-29

1:27 それなのに神は、知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまえに誇ることはないためである。

…

1:31 それは、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりである。

Ⅲ. 生き方の模範となられる

ヨハネとヤコブのことを聞き、他の弟子たちは、憤慨したとあります。

10:42 そこで、イエスは彼ら呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

10:43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

10:44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。

聖書は、高い地位につくことや、責任ある地位や権威を持つことを否定しているのではありません。「その人たちが、どのような生き方をすべきか」を教えているのです。

イエス・キリストはご自分をお示しになりました。

10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

今、現代の争いをめぐる各国の権力者やリーダーの動向が気になる時代となっています。そしてそのリーダーの人格や品格が、国を性格付け世界を時に整え、また揺さぶることさえあることを改めて知らされます。

わたしたちは、そんな中でイエスさまに目を向けさせていただいているのです。

そのすべてはあの十字架にあらわされています。

イエスさまは、その十字架を前に孤独を経験し。親しい人の裏切りを経験しました。愛する人たちから背を向けられ、なじられ、つばを吐きかけられ、傷つけられ、殺される経験もしました。それでもなお、イエスさまは変わることなく人を愛し、わたしたちを愛し抜かれたありさまを聖書は描いているのです。

それが僕として生き抜いたイエスさまのありさまです。

ルカ23:34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。

わたしは、十字架上でこの主の言葉を忘れません。これは私のためのとりなしの祈りだとわかるからです。

当時の時の宗教的権力者、この世的に自分たちの権力や地位、立場を誇った人たちは、イエスを殺し、自分たちの正当性と力を証明したかのように思ったかもしれませんが。

しかしイエスは復活されました。その死を打ち破りよみがえられたのです。しもべとして徹底してつぶされたと思われた方の復活が、従う人たちをつくりかえ、時代をつくりかえていったのです。

これは今の時代にも変わらない真実であることをわたしははっきりと申し上げます。

そして、この時代の力志向の雰囲気にならぬようにわたしたちに対してイエスさまは、今も変わらず語り続けてくださっています。

10:43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたと思う者は、仕える人となり、

10:44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。

この時代においても、イエスさまを見て、この言葉を自分への言葉として生きる者とされていくならば幸いです。